

もしも41週目以降に誘発分娩を選択した場合、どうなりますか？

誘発分娩を検討している場合、全ての出産オプションについてリスクと利点を比較評価するために助産師および医師に相談されると良いでしょう。

41週目以降の誘発分娩の利点:

- 赤ちゃんの合併症のリスクが低減されます。
- 帝王切開をするリスクが低減されます。

誘発分娩によるリスク:

- 鉗子分娩や吸引分娩などのさらなる介入が必要になる場合もあります。
- 鎮痛の必要性が高まり、そのためさらなる介入の必要性が高くなる場合もあります。
- 母体の出血リスクが高まります。

誘発分娩は、破水と陣痛促進剤使用の組み合わせです。目的は子宮頸部を開口して、子宮の収縮を開始させることです。陣痛促進中、助産師および医師は協力してあなたを介護します。赤ちゃんはCTGによって継続的に監視されます。

以前に帝王切開の経験がおりの場合は、NSW Kids and Families (NSW州キッズ・アンド・ファミリーズ) のウェブサイト (www.kidsfamilies.health.nsw.gov.au) の帝王切開後の次回出産 (NBAC) というパンフレットから、経膈分娩のオプションについて詳細をご参照いただけます。

誘発分娩を希望すると決定された場合には、医師の助産師は、あなたが病院に行くべき適切な日を手配します。



42週に入っても、陣痛が始まらなかった場合、どうなるのですか？

もし妊娠42週に入った場合には、医療専門家は42週を超過した場合のあなたと赤ちゃんのリスクについて相談します。

以下のようなリスクが考えられます:

- 妊娠42週を超過した場合、死産のリスクが高まります。
- 赤ちゃんが大きくなり、羊水量が少し少なくなる可能性が高まります。
- 42週を超過するまで待つと:
 - * 母体の出血リスクが高まります。
 - * 赤ちゃんが大きくなるため、会陰の損傷リスクが高まります。
 - * 帝王切開術のリスクが高まります。

私にとって次のステップは:

本情報パンフレットはExpert Advisory Group of NSW Kids and Familiesにより作成されたもので、NSW Kids and Families のウェブサイト (www.kidsfamilies.health.nsw.gov.au) からダウンロードおよび印刷してご利用いただけます。本パンフレットについて、ご質問やご提案等がおりの場合は、医療専門担当者にご意見をお伝えください。

2014年発行

SHPN: (HSP) 170086



妊娠 41週を超過

予定日を1週間超過した時の
出産オプションに関する情報



NSW
GOVERNMENT

Health

本情報パンフレットは、もしも妊娠41週を超過した場合、つまり予定日を1週間過ぎた場合に、あなたと赤ちゃんにとって最も適切な選択をするために役立つ情報を提供いたします。

本パンフレットの情報は、助産師および/または医師と相談される際に役立ちます。

私は現在、妊娠41週目で出産予定日を過ぎています。どんな選択肢がありますか？

妊娠した時、医療専門家は赤ちゃんが出生すると推定される予定日を告げたことでしょう。この日付は妊娠期間が40週間ということで、あくまでも予測ですが、実際に殆どの赤ちゃんはこの日付の前後7日以内に生まれます。

どの妊娠も同じというわけではなく、人によって妊娠期間が短かかったり長かったりするものが普通です。事実、100人の女性のうち約8人は41週目までに陣痛が始まらず、殆どの女性は42週目に入る前に陣痛が始まります。

あなたがまだ妊娠41週目で出産していない場合、出産方法のオプションは医療専門家と協議して決めるべきです。短時間に最善の選択をするためには適切な情報とサポートが役に立つでしょう。

陣痛が自然に始まるのを待つと利点はありますが、一方、誘発分娩は妊娠42週目以前に行われることをお勧めします。



自然に陣痛が始まるようにするために役立つ方法がありますか？

陣痛の始まりを促進する非医学的なオプションもいくつかあります。あなたの医療専門家が情報と助言を提供できるでしょう。

1つの選択肢は、「卵膜剥離」と呼ばれる処置です。妊娠41週目以降、医療専門家は卵膜剥離（ストレッチ・アンド・スイープとも呼ばれる）を提案するかも知れません。卵膜剥離は、膣の健診（内診）中に行われます。医療専門家が子宮頸部に指を挿入して、頸部の周りを円を描くようにして、羊膜嚢（赤ちゃんのまわりの液嚢）を子宮頸部から剥がすようにします。卵膜剥離は、子宮の収縮を助けるホルモンの分泌を促します。この処置は2度以上受ける必要があるかも知れません。卵膜剥離は陣痛が始まるまで定期的に繰り返し受けられます。卵膜剥離はあなたにも赤ちゃんにも害を及ぼすことはありません。

卵膜剥離の利点

- 卵膜剥離は、自然に陣痛が始まる可能性を高くする場合があります。
- 卵膜剥離は、妊娠の定期健診中に行われ、通常、処置後は帰宅できます。

卵膜剥離の欠点

- この処置は、軽度の痛みを伴い、不快に感じる人もいます。
- 処置後、膣から少量の出血と不規則な収縮を伴う場合もあります。心配な場合には医療専門家にご連絡ください。
- 陣痛が始まらない場合もあります。

自然に陣痛が始まるのを待つとどうなるのですか？

自然に陣痛が始まるのを待った場合の利点:

- 普通分娩の可能性がより大きくなり、母子の絆が深まり、長期的な福祉の向上につながります。
- その後の妊娠において出産が複雑ではなくなる可能性が高まります
- 鉗子分娩や吸引分娩などの介入の可能性が低下します。
- 回復時間と入院期間が短縮されます。
- 母体の血栓（深部静脈血栓症）のリスクが低減されます。

陣痛開始を待っている間、あなたと赤ちゃんのためにより頻繁な健診が必要です。健診は通常、胎児心拍陣痛計（CTGとも呼ばれる）を使用して、赤ちゃんの心臓の鼓動を監視します。赤ちゃんのまわりの羊水の量を測定するために超音波走査が行われる場合もあります。

赤ちゃんの動き

妊娠中、胎動の正常なパターンについて医療専門家が説明するはずですが、赤ちゃんは、陣痛開始まで、また分娩中ずっと動き続けているべきです。赤ちゃんの動きが少なくなったり、動きのパターンの変化に気づいたり、または赤ちゃんの動きについて心配な場合には、医療専門家または産婦人科病棟に即座に連絡することが重要です。

